

射影多様体の無限列  $\{X_n\}$  ( $n \in \mathbb{N}$ ) で 任意の自然数  $n$  に対し  $X_n$  は  $X_{n+1}$  のアンブル因子の時、 $X_n$  の構造を決定することを考える (この  $\{X_n\}$  を infinite-dimensional projective variety と呼ぶことにする)。多様体のアンブル因子の構造がわかっているとき、もとの構造を調べる。多様体とそのアンブル因子はレフシェツ定理等によりその位相的、解析的、代数的構造が酷似している。超平面切断した 1 次元低いアンブル因子の情報から元の情報を引き出すことは高次元多様体の構造解明の基本的手段である。又アンブル因子として無限列を持つものは構造が単純かつ有効な多様体であるはずだという予想による。これらの多様体は有理曲線を持ち、多様体上でその挙動が規則性・整列性を帯び、構造にも影響する。